

こどもに生活の能力を

2006.11.03

ずいぶん肌寒くなって、函館市内近郊では冬になると流行する溶連菌性咽頭炎が大流行しています。抗生物質を飲みはじめて1日たつとほとんど人にはうつさなくなりますが、大事をとって飲みはじめて2日間は学校、幼稚園、保育園は休むようにしましょうねと私は言うようにしています。

11月になると、各地で来年度の就学に向けての動きが始まります。来年の就学に向けてMR(麻しん・風疹混合)ワクチンの接種は済みましたか？まだの保護者の方は忘れずに、できれば年内に済ませるようにしましょう。

10月末から函館市の就学指導委員会の仕事が始まりました。この会は、障害を持つお子さんの教育の場がどこがふさわしいかを今までの経過や保護者の方のお考え、お子さんの状態を総合的に判断して検討する会です。開業のかたわらこの仕事をするのは関わる両方のお子さんに申し訳ないことが多いのですが、ライフワークとして障害を持つお子さんと関わることを考えている私にとっては、多くのお子さんの行く末をこの目で確かめ自分の考えを表明できる場でもあるので大切にしたい会でもあります。

その中で気になることは、知的な発達と生活能力のアンバランスさが増えてきた気がすることです。学校の先生にお尋ねしたら、障害を持っているお子さんばかりではなく、通常学級にいるお子さんも、生活能力が身についていないと思われる割合が増えてきているようです。ここ数年の成人式での様子を考えれば、場所に依って行動を律することすらできない子ども達の始まりが入学時の生活能力の低さと関連しているのかもしれない。

先月の早寝早起き朝ごはん、テレビ・ビデオ・ゲームをやめて外遊びに関連しますが、騒がれるのがいやだからといってゲームに没頭している子どもをあなたの心の中で放置していませんか？ぜひ家庭の中でこどもに応分の仕事と責任を与えてください。こどもと一番多くの時間を共にするのは、保育園でも、学校でもなく家庭なのですから。